

編集長 : 塩澤諒子
編集委員 : 石井宏典 蛸灰谷愛 平岡性
増田圭輔 矢原有理 ファリス・ジェイ

2007年研究室忘年会 過ぎ去りし1年、夜の歓談に想う

12月20日、本郷鳳鳴館本館にて、2007年の忘年会が行われました。現役・OB・OG、など大勢が集まった会は大盛況。恒例の一人一言のお題は「私の誇り」。それぞれが一年をふりかえり、マイクを握りました。

text_shiozawa



【西村先生コメント】

志を大きく持て。勝海舟の「氷川清話」には感動した(64-65号インタビュー参照)。我々が今考える「公共とは何か」という命題を、西郷・勝らは維新前に考え、行動した。OB・OGも集まった貴重な今晚、ぜひ志を引き継ぐ場として欲しい。

この1年は過去最高の受賞ラッシュ(8つ)で、1研究室として素晴らしいエネルギーと思う。来年は季刊まちづくり連載の「都市空間の構想力」を私の100冊目の本として出版する。北沢教授の「空間作りの貢献」と並び、こういう「言葉による貢献」を2つの軸として、研究室の活動を世の中に伝え、役立てていきたい。

【北沢先生コメント】

この1年、我々のノウハウを蓄積し、地域への思いを形にするための拠点、新しい枠組みの組織として柏UDCKが実際に立ち上がったのは良かった。自分の集大成の活動でもあり残りの人生を賭けて全国に20ヶ所はこういう組織を作り、デザインセンターというコンセプトを広めたい。そのために、皆もぜひ、時間・知恵・労力を貸してほしい。

都市をいかに磨かかを考え、私は走り続けてきた。今曇りがちの都市、皆も上手に磨き、その輝きを取り戻して欲しい。



第14回研究室会議 text_yahara

忘年会に先立って、2007年最後の研究室会議が行われました。10人が発表を行った会議は、途中で場所を移し、5時間にも及びました

- 伊藤雅人
『東京山の手における旧河川道とその近辺に広がる密集市街地との関係性に関する研究』
- 塩澤諒子
『近代以降の小広場空間の計画思想と空間の変遷に関する研究』
- 石井宏典
『瀬戸内島嶼部の集落景観の特性とその保全に関する研究—小豆島内海地区・「響の郷」を対象に—』
- 横田俊介
『都市の夜間景観形成の系譜(歴史とツール)に関する研究』
- 筒井直央
『米軍基地跡地留保地の利用計画策定の実態と課題に関する研究(仮)』

- ファズリ・ピンズビ
『PLACE MAKING WITHIN THE CONTEXT OF WATERFRONT DEVELOPMENT: A STUDY ON THE PLANNING AND DESIGN OF ODAIBA WATERFRONT CITY, TOKYO』
- ウィチエンブラディット・ポンサン
『屋台村と中心市街地活性化への効果の考察(仮)』
- 竹山奈未
『都市変遷期の都市計画によるオープンスペース形成に関する研究—ウィーン、カールスプラッツを事例として—』
- 後藤健太郎
『都市における交叉点の空間的意味と景観の特性に関する研究—東京都心部における多叉路(五叉路、六叉路)を通して—』
- 吉田拓
『景観供覧装置としての公共交通機関のあり方～東京モノレールにおけるケーススタディ～』

冬休み・帰省特集

Take Me Home, Country Roads

北海道・札幌 矢原編集員

私の地元、北海道の特徴は、何と言っても広大な大地。夏休みには知り合いの農家で農作業のお手伝い(じゃがいも拾い)をしてきました。そこでは、延々と続く広大な畑と空の占める面積の大きさに感動する一方で、周辺の農家同士で農作業を助け合っている姿と共に、想像以上の農作業の大変さ、自然や農家の経営の厳しさを知り、改めて食べ物に対する感謝の念を抱かずにはいられませんでした。

そんな雄大な北海道のおすすめの観光スポットといえば、旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群(上士幌町)。

ダム湖に位置するその橋は、湖の水位の変化により春夏秋冬で様々な表情を見せます。冬には氷の上を渡って橋を見に行けるのだとか。周囲には、温泉もあり大変癒される場所なので北海道へ行く際は足をのばしてみてください。



留学生お宅訪問 第5回

ジャック・ファリスさん (アメリカ)

今回の訪問は修士1年ジェイさん宅。本郷から自転車で約30分ほど。手作りのお料理をいただいて畳の部屋でくつろぎながら、いろいろなお話を聞いてきました。

text_hiraoka

Q 日本に来るまでの経歴と日本に来た理由
アメリカの大学では都市について勉強していた。卒業後、就職。その後、学生時代にロシアに留学した経験があったため、ロシアへ。3年ほどロシアで仕事をしたあと、来日。山形で3年間働いて、その後東京に。3年ほど住んでいる。ウラジオストックにいたので日本は近く、ピザの切り替えをきっかけに日本に来た。

Q 日本で好きな場所
鶴岡が好き。海も近くて山も近い、自然に囲まれた場所だから。東京だと吉祥寺。大塚巣鴨駒込あたりも、東京なのに近所づきあいのようなものが残っていて、歩いていてそれを感じられるから好き。

Q ここが変だよ日本の街
市町村合併はおかしい。山をはさんだ町なのに同じ市になっていたりして、範囲が広すぎるように思う。「読めない字」があることが不思議。英語だと「読めない」ということはないが、日本だと、「この字なに?」「読めない…」という言葉をよく耳にする。これは漢字の文化特有のことだろう。(街じゃないけど…)

Q 日本で好きなもの
プリクラはおもしろい。

Q 研究室のメンバーへメッセージ
助けてください!!
(わからないこともたくさんあるので、いろいろ教えてください。)

作っていただいたお料理は、チリとケーキ。豆やとうもろこしの粉など、アメリカならではの食材をふんだんに使ったもので、どれもおいしかったです!!日本でも撮りためたプリクラ帳まで見せていただいて、とても楽しい訪問でした。

ジェイさん、ありがとうございました☆



年末年始を地元で過ごした方も多くは、今回は地方(海外)出身のマガジン編集部員に、ふるさと紹介してもらいます。

テキサス・ボーモント ジャック・ファリス編集員

12月に故郷に帰りました。親の40周年結婚記念日と5年ぶりに家族と一緒にクリスマスをお祝しました。成長したいとこ達の子供には驚いたんですが、なかなか慣れないのが故郷の変わった様子でした。

ボーモントという町の人口は11万人くらいで重要な産業は石油化学系産業やお米栽培と果物栽培の農業です。周りの町と含むと人口は30万人のはずですが、ハリケーン・カトリーナの影響で人口が増えたそうです。2005年のハリケーンはカトリーナだけではなくリタの影響が見られます。カテゴリ5の強いハリケーン・リタは直接ボーモントの海岸に上陸したのでボーモントは現在、違うところに見えるのです。

南西テキサスでは緑が多い、木が高いところで、子供のときには直接に太陽の光があたる場所は海しくない気がしましたが、今は木がなくなり、ボーモントは前より明るいところになりました。ボーモントの緑色の涼しさがほとんどなくなりました。その上、カトリーナの避難者はニューオーリンズから来たので、ボーモントの人口が増えました。どのくらいの避難者がいるのかまだ不明ですが、街の様子を見るだけで簡単に分かります。ルイジアナ州ナンバーは珍しくないで混んでいる状態になっています。交通の面や住宅の面から見ると大きな問題になっているのです。町はどうするのか分からないんですが、今そのまま続けると困ると思います。

西のほうはアメリカ的郊外造り方で、広い一本の道路から何本もの行き止まりの住宅街を造っています。その小さな道路は住宅のみなので、住んでいる人が買い物に行ったら、車を使わなければいけないので道路が込んでいます。今まで、将来を考えている街づくりが少しあったのですが、今は人口が急に増えた影響で考えていないようです。それを見たら、がっかりしました。

家族と一緒にクリスマスをお祝するのは5年おきにします。今回は十分だと思います。

BankART school 研究会終了 アイデアの坩堝、冊子に固まらん

text_kakibaya

12月13日をもって、Urban Design Study YOKOHAMA 2007 (UDSY)の全8回の研究会が終了しました。交通、都心、郊外、緑、エコ戦略の5つの分科会による最終提言発表が行われ、北沢先生や阿部副市長を中心に、横浜の将来像について熱い議論が交わされました。会の終わりには、スクール全体の運営や各分科会のサポートを担当していた10名の学生スタッフへ、花束とマイ箸(エコロジー対策)のプレゼントという、嬉しいサプライズもありました。



現在、各講義や提案を中心としたまとめ本を作成中で、M1学生スタッフはまたもや編集作業に追われています。3月発行予定です。

編集後記

text_lshii

正月以来、暖房の効いた部屋でぬくぬくと過ごしてきましたが、いざ街に出てみると、やはり今年は寒かったですね。卒業旅行、北関東の路肩にぐずぐずと長く残る雪は、なにやら修士研究のやり残しのメタファーのようでもあり、まだ春の訪れまでの遠さを感じました。道路は凍っても、マガジンの発行まで凍結してしまわぬように、今後も暖かいご支援よろしくおねがいいたします。